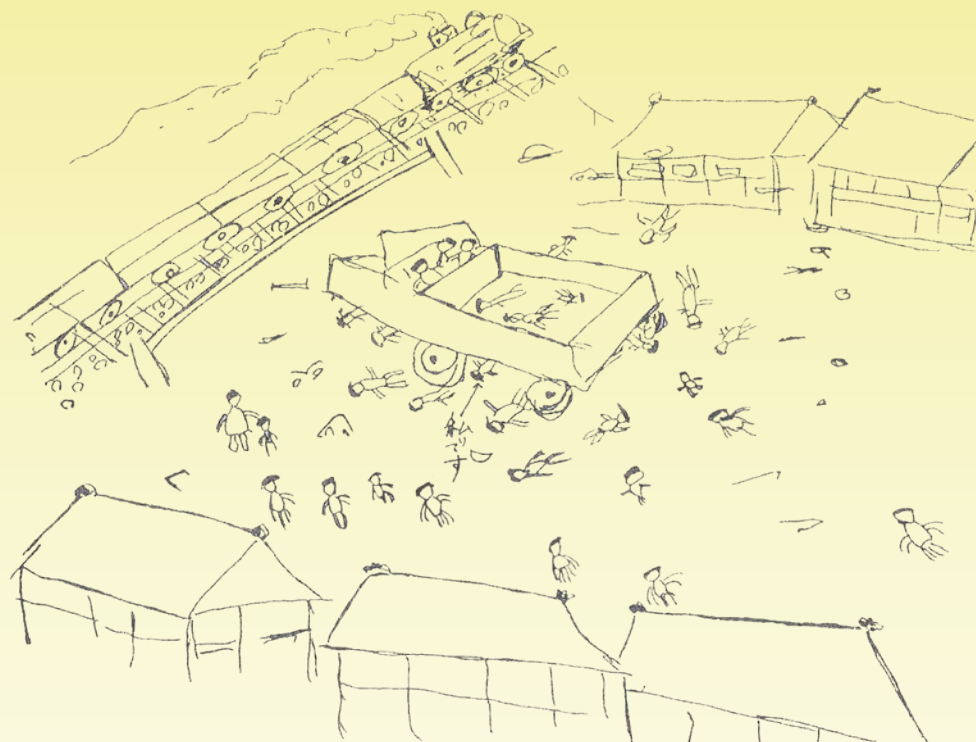


企画展

相双地方の被爆体験を伝え継ぐ

— 証言 ヒロシマ・ナガサキのこと —

令和4年10月22日(土) ▶ 12月11日(日)



Aさんが描いた被爆直後の状況（『私も証言するーヒロシマ・ナガサキのことー』1983）

◆ 平和学習講座

「ヒロシマから未来へ

核兵器のない平和な世界を目指して」

令和4年10月30日(日) 13:30~14:30

講師 西村 宏子氏

（広島平和記念資料館派遣講師）

会場 博物館シアター 受講無料

※受講には申込みが必要です。定員36人

◆ I C A N（核兵器廃絶国際キャンペーン）受賞

ノーベル平和賞メダル・賞状公式レプリカ展示

令和4年10月29日(土)・30日(日)

9:00~16:45

会場 博物館展示ホール 観覧無料

（東北以北初展示）



©ピースポート

南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194 電話：0244-23-6421 FAX：0244-24-6933
URL <https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/index.html>

開館時間 9:00~16:45（最終入館は16:00まで）

休館日 毎週月曜日

観覧料 一般400円（350円）高校生200円（150円）小中学生100円（80円）

（ ）内は20人以上の団体料金です。

市内および飯館村に居住・通学する小中高生は無料。障がい者の方と付添いの方1人、生活保護世帯の方は無料（入館の際に手帳等をご提示ください）。

*無料観覧日 11月3日(木) 文化の日・東北文化の日

博物館公式WEB



新型コロナウイルス感染症対策としてマスクの着用と他のお客様との距離の確保にご協力ください。混雑時に入場をお待ちいただく場合があります。



『私も証言するーヒロシマ・ナガサキのことー』(1983)

被爆者に対する誤解や偏見を解かなければいけないと思います。悲惨な体験を繰り返さないように、体験を教訓として後世に活かすべきです。

娘の縁談で、私が被爆者どこから聞いたのか、分かって解消になってしまいました。

娘も私自身もこのとおり全く健康なんです。

みんなから怠け者、くさし者、やっかいオンツアマトみられ、医者に診てもらうこともできず、病名や原因も不明のまま亡くなった戦友。



『あの日からSさんは桑原さんは』
© 相馬高等学校

主な展示資料

- ・ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター (広島平和記念資料館)
- ・10 フィート映画運動「にんげんをかえせ」ポスター、峠三吉著『原爆詩集』
- ・相馬地方・双葉地方在住者による被爆体験談パネル
- ・丸木位里・俊画「原爆の図 火 (原寸大複製画)」(原爆の図 丸木美術館)
- ・原爆ドーム近くの元安川から採集した被爆瓦 (相馬高等学校蔵)
- ・被爆者のテレビ番組 (相馬高等学校放送局制作)
- ・I CAN受賞ノーベル平和賞メダル・賞状公式レプリカ (ピースボート蔵)

昭和58年(1983)、戦後38年を経て相馬地方・双葉地方在住者が語る被爆体験談集『私も証言するーヒロシマ・ナガサキのことー』が、原水爆を考える原町市民の会の編さんにより刊行されました。ここには、20人の被爆体験談が載せられています。広島・長崎から遠く離れた相双地方に多くの被爆者がいたことは驚きに値します。

戦後70数年が経過し、戦争の生き証人である戦争体験世代がますます少なくなっています。また、戦争の記憶の風化が指摘されて久しい今日ですが、被爆体験やその後の生活体験を通して原爆の残虐さ、戦争の悲惨さや愚かさを伝え継ぐとともに、平和の尊さを確認する機会とします。

以下に体験談の一部を紹介します。

B29が飛んでいて、何かキラキラというか、光ってゆっくりと落ちてきました。それが実はパラシュートを付けた原子爆弾だったんですね。
(実際には原爆の前に降下された気象観測機です)

私たちの経験を記録として残すことは大賛成です。でも、被爆者の中には、世間に知られることを警戒する人も多いです。

子供に何らかの影響があるのではないかと不安でした。体の弱い孫はいないので一応安心しています。

こんな体で、本当にあの時、死んだ方が良かったのではと、以前は考えたこともありましたが。

娘の縁談で、私が被爆者どこから聞いたのか、分かって解消になってしまいました。

娘も私自身もこのとおり全く健康なんです。

みんなから怠け者、くさし者、やっかいオンツアマトみられ、医者に診てもらうこともできず、病名や原因も不明のまま亡くなった戦友。



被爆瓦 (相馬高等学校蔵)

明るい朝に、それこそピカッと光ったんです。しばらくして今度はドーンという地響きが続ききました。原爆のことをピカドンと言っていました。本当なんです。

広島あの美しかった川、水の都ともいわれたのですが、その川に死骸が無数に浮いていて、まるで死体のいかだ流しのようなものでした。

爆発の瞬間に私と話をしていた戦友は、頭がぱかっと思えます。今まとめておかなくていいですね。

被爆者ということが知られて不幸になるようでは世の中が悪いのです。

火傷をしている人、体が溶けている人、けがをしている人など、とても言葉では表せないようなひどい状態でした。

玉音放送の翌日、本当に戦争が終わったことを先生から知らされ、やっと両親に会える喜びがわいてきました。



1さんが描いた長崎の被爆の状況
(『私も証言するーヒロシマ・ナガサキのことー』1983)